

集団給食におけるイメージ調査

鵜飼美恵子・熊沢昭子

An Image Investigation through the Mass-Feeding

by

M. UKAI and A. KUMAZAWA

はじめに

集団給食をすすめていくためには、作られた料理を喫食者によるこんで食べてもらう必要がある。これを実現していくには喫食者の「食べ方」の実態を知った上で献立の作成をしなければならない。なかでも喫食者が料理名をみてえかイメージと、実際に食べたときとの差かかけはなれていると給食に対する不満の原因ともなりかねない。このような観点からイメージに関する調査を行ない検討を試みたので報告する。

調査方法

- i) 対象：名古屋女子大学学寮生（M寮，Y寮）155名
- ii) 時期：昭和41年6月
- iii) 記入方法：調査日に近い日の献立4品目をとり出し、それに対し次のような記号を定めて記入をもとめた。

献立表をみたとき	{	おいしそうと思ったら	○
		まずそうと思ったら	×
実際に食べたとき	{	おいしかったら	○
		まずかったら	×

集計方法

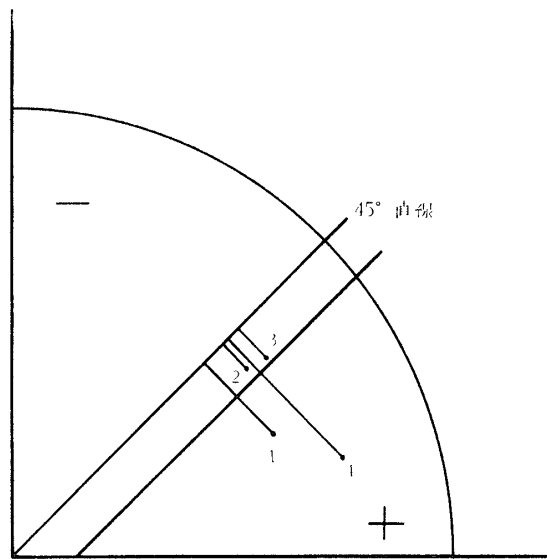
符号検定法¹⁾により行なった。すなわち「差の平均値かゼロである」という仮説をたてて、その仮説が成り立つかどうかを検定した。ゼロ仮説のもとでは献立表をみたときの感じの符号（オモテの確率）に対して実際に喫食したときのうまさの感じの符号（ウラの確率）との2つの可能性を合わせて考えることが必要である。したかってこのように両端の確率を考え合わせて棄却検定するために両側5%臨界値を用いた。献立をみたときと、実際に食べたときの両方ともに○印、あるいは両方ともに×印のときは $\pm = 0$ とし、献立をみたとき○印で、実際に食べたとき×印の場合は+の符号、献立をみたとき×印で、実際に食べたとき○印の場合は-の符号とした。

（両側のnの5%臨界値） \leq （nの中の(+)の個数）のときは仮説を捨て、（両側のnの5%臨界値） $>$ （nの中の(+)の個数）のときは仮説は捨てられない。以上の方法によりM寮の検定を行なった。しかしnの数の多い場合には棄却限界をはかるために推計紙（二項確率紙）による座標を作成し検定した。座標による棄却検定法では危険率5%に対するこの垂線の臨界値

は両側で約1cmと定められているところから垂線がこのいずれよりも長ければ差があるという判断をくだすことになる。学寮生全体と、Y寮についてはこの座標による検定法を用いた

結果および考察

学寮生全体についてのイメージの差の検定を行なった結果は第1表に示すとおりである



第1図 学寮生全体の符号検定方法

No	献立名	+	-	n	判定
1	ポテトサラダ	36	8	44	※
2	旨煮	29	18	47	
3	いかとさやいんげんの酢みそ和え	34	20	54	
4	五目いり卵	57	5	62	※

※ 両側5%臨界値 $\leq n(+)$ のとき

第1表 学寮生全体の符号検定結果

地方名	M寮	Y寮	計
西日本地方	29	59	88
中部地方	16	50	66
その他の地方	0	1	1

第2表 出身地方別分類

ポテトサラダと五目いり卵に+が強くあらわれているが、このことは献立をみたときにおいしそうかと思ひ、実際に食へたときにまずかったと答えた者の数が多いことを示している。そこでイメージの差の原因をさぐるために次のような項目に分けて検討を試みた

1) 出身地方別によるイメージの差の検定

寮生の出身地を地方別に分類したものが第2表である

九州地方 (長崎県, 福岡県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県)

四国地方 (愛媛県, 香川県, 高知県, 徳島県)

西日本地方 … 中国地方 (山口県, 島根県, 鳥取県, 広島県, 岡山県)

近畿地方 (兵庫県, 京都府, 福井県, 滋賀県, 大阪府, 和歌山県, 奈良県, 三重県)

中部地方 … 石川県, 富山県, 新潟県, 長野県, 岐阜県, 愛知県, 山梨県, 静岡県

その他の地方 … 群馬県

西日本地方と中部地方出身者の+, -, についてあらわしたのが第3表である

両地方ともにポテトサラダと五目いり卵に+が強くあらわれている。このように同じ傾向にあることは、出身地方別によるイメージへの影響はないものと判断される

2) 出身地域別によるイメージの差の検定

出身地域別の分類を第4表に示した

小都市と農村の+, -, についてあらわしたものが第5表である

小都市ではポテトサラダに+が多くみられ、農村は少ない。そこでポテトサラダにおいて小

都市と農村出身者の間に差があるか否かをみるために χ^2 test により検定を行なった。その結果、値が0.01となり有意の差は認められなかった。〔自由度 $n = (2-1)(2-1) = 1$, $\chi^2(5\%) = 3.84 > 0.01$ 〕

3) 兄弟姉妹の多少別によるイメージの差の検定

家族構成のうち兄弟姉妹の多少別により分類したのか第6表であり、+、-、についてあらわしたのか第7表である。

1人子については一か0のため判定不能であり、兄弟姉妹が4~2人のグループにおいてはポテトサラダと五目いり卵にイメージの差が強くあらわれている。このうちポテトサラダについて5人以上のグループと、このグループとの間に差があるか否かを χ^2 test により検定した。その結果有意の差は認められなかった。(3.84 > 0.004)

4) 寮別によるイメージの差の検定

寮別による人員構成は第8表のとおりである。

M寮については第9表にみられるようにいずれの料理においても献立表をみてえかいたイメージと、その料理を実際に喫食したときには違いがなかったといえよう。Y寮においては第10表のようにポテトサラダと五目いり卵に差が認められたので、M寮とY寮との間にはポテトサラダについてはたして有意の差があるか否かを χ^2 test により検定を試みた。その結果有意の差は認められなかった。(3.84 > 0.70)

以上、献立名に対するイメージと、実際喫食した場合の評価とか逆に出ている場合かかなりの率で認められた。このことは実際作られた料理のときはえ(M寮とY寮の差)、および各人の現在までの環境、過去の経験、知識など各種の因子が献立に対するイメージの差となっていることか考えられる。しかし今回取りあけて検討した4つの因子、すなわち、

地方名	献立名	+	-	n	判定
西日本地方	ポテトサラダ	21	6	27	※
	旨煮	17	10	27	
	いかとさやいんげんの酢みそ和え	18	12	30	
	五目いり卵	33	2	35	※
中部地方	ポテトサラダ	13	2	15	※
	旨煮	11	9	20	
	いかとさやいんげんの酢みそ和え	15	7	22	
	五目いり卵	25	2	27	※

※ 両側5%臨界値 $\leq n(+)$ のとき
第3表 出身地方別符号検定結果

地域名	M寮	Y寮	計
大都市	1	4	5
小都市	22	56	78
農村	7	32	39
山村	7	5	12
漁村	0	1	1
島	4	1	5

第4表 地域別分類

地域名	献立名	+	-	n	判定
小都市	ポテトサラダ	19	4	23	※
	旨煮	15	6	21	
	いかとさやいんげんの酢みそ和え	14	11	25	
	五目いり卵	28	0	28	一か0のため不能
農村	ポテトサラダ	10	3	13	
	旨煮	7	8	15	
	いかとさやいんげんの酢みそ和え	11	3	14	
	五目いり卵	17	2	19	※

※ 両側5%臨界値 $\leq n(+)$ のとき
第5表 小都市と農村別符号検定結果

出地身方別，出身地域別，兄弟姉妹の多少別，このことから原因は別の因子に求められるか，考えられるので，今後の問題としたい。

察別においては有意の差は認められなかった，あるいは複合的に作用しているのではないかと

兄弟姉妹の多少別	M察	Y察	計
本人を入れて5人以上	3	16	19
本人を入れて4～2人	37	89	126
1人子	5	4	9

第6表 兄弟姉妹の多少別分類

兄弟姉妹 多少別	献立名	+	-	n	判定
本人を入れて 5人以上	ポテトサラタ	6	1	7	
	旨煮	5	2	7	
	いかとさやいんけんの酢みそ和え	6	1	7	
	五目いり卵	10	0	10	-か0のため不能
本人を入れて 4～2人	ポテトサラタ	25	7	32	※
	旨煮	22	17	39	
	いかとさやいんけんの酢みそ和え	25	18	43	
	五目いり卵	46	4	50	※
1人子	ポテトサラタ	3	0	3	
	旨煮	1	0	1	
	いかとさやいんけんの酢みそ和え	2	0	2	-か0のため不能
	五目いり卵	2	0	2	

※ 両側5%臨界値 $\leq n(+)$ のとき

第7表 兄弟姉妹の多少別符号検定結果

M察	Y察	計
42	113	155

第8表 察別人員構成

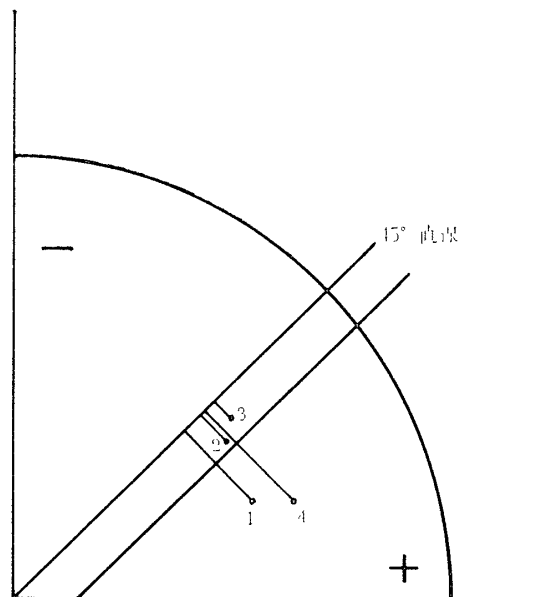
献立名	+	-	n	判定
ポテトサラタ	6	3	9	
旨煮	5	5	10	
いかとさやいんけんの酢みそ和え	9	3	12	
五目いり卵	16	0	16	-か0のため不能

第9表 M察における符号検定結果

No.	献立名	+	-	n	判定
1	ポテトサラタ	30	5	35	※
2	旨煮	24	13	37	
3	いかとさやいんけんの酢みそ和え	25	17	42	
4	五目いり卵	41	5	46	※

※ 両側5%臨界値 $\leq (n) +$ のとき

第10表 Y察における符号検定結果



第2図 Y察における符号検定方法

要 約

献立作成にあたって献立名から寮生かうけとるイメージと，実際喫食した場合の差を少なくすることは集団給食実施の上に重要であるとの見地からイメージ調査を行ない，ポテトサラタ，旨煮，いかとさやいんけんの酢みそ和え，五目いり卵の4品目について，イメージの差の検定

を行なった結果、ポテトサラダと五目いり卵に料理名をみてえかくイメージと実際に食べた後との差が強かった。さらにその原因を知る目的で、1) 出身地方別によるイメージの差の検定、2) 出身地域別によるイメージの差の検定、3) 兄弟姉妹の多少別によるイメージの差の検定、4) 寮別によるイメージの差の検定を行なったが、いずれの項目においても有意の差は証明されなかった。

参 考 文 献

- 1) 社会栄養学研究グループ編：(1964) 嗜好調査，医歯薬出版株式会社，p 75
- 2) 高木和男：(1965) 調査統計と効果判定法，医歯薬出版株式会社，p 63